

大分工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	30G110			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	(教科書) 高石昌弘, 小沢治夫ほか, 「現代保健体育」, 大修館書店. /(参考図書) 秋山兼範, 麻生紘二ほか, 「最新スポーツルール」, 大修館書店.						
担当教員	川内谷 一志,大庭 恵一,詫摩 英明						
到達目標							
(1) 基礎体力の維持・向上を目標とする. (ゲームと記録) (2) 体育実技で行った運動種目のルールを正確に理解し, ゲームを楽しむことができるようにする. (ゲーム) (3) 保健学習で行った内容を正確に理解する. (定期試験)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	あらゆる運動に必要な基礎体力を身につけている			運動をある程度行うための基礎体力を身につけている		運動を行うための基礎体力がみについていない	
評価項目2	体育実技で行うスポーツのルールを十分に理解し, 積極的にゲームを楽しむことができる			体育実技で行うスポーツのルールをある程度理解して, ゲームを楽しむことができる		体育実技で行うスポーツのルールを理解できず, ゲームを行うことができない	
評価項目3	保健学習で行った内容を十分に理解できる			保健学習で行った内容をある程度理解できる		保健学習で行った内容をほとんど理解できていない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (A1) 学習・教育到達度目標 (B1)							
教育方法等							
概要	1 学年は, スポーツの持つ特性を理解させ, 創意工夫して個人の技能を向上させるとともに, 体力増強や健康管理ができるように工夫する. 保健学習では, 「生涯を通じる健康」および「現代社会と健康」について学習する. (科目情報) 前期1 コマ, 後期1 コマ, 授業時間43.5 時間 関連科目 保健・体育 (2 年)						
授業の進め方・方法	達成目標の(1)から(3)について実技と試験で評価する. 総合評価=0.8×(授業で行った各種目の実技点の平均)+0.2×(保健テスト点) 総合評価は, 前期評価と後期評価を平均して評価する. 授業態度により, 評価点からその20%を上限として減点を行う. 総合評価60 点以上を合格とする.再試験は, 実施しない.						
注意点	(履修上の注意) 授業は, 学校指定の体操服・運動靴・体育館シューズで行う. (自学上の注意) 授業で行うスポーツのルールを調べておく.						
評価							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		保健体育の授業の概要について説明する.		
		2週	スポーツテスト		運動能力テスト (50m, 立幅跳, ハンドボール投, 持久走) を正確に実施する		
		3週	スポーツテスト		体力診断テスト (握力, 反復横跳び, 長座体前屈, 上体起こし) を正確に実施する		
		4週	柔道①		個人技能の習得後, 約束練習や簡易試合を行い, ルール審判法を習得する.		
		5週	柔道②		個人技能の習得後, 約束練習や簡易試合を行い, ルール審判法を習得する.		
		6週	柔道③		個人技能の習得後, 約束練習や簡易試合を行い, ルール審判法を習得する.		
		7週	柔道④		個人技能の習得後, 約束練習や簡易試合を行い, ルール審判法を習得する.		
		8週	柔道⑤		個人技能の習得後, 約束練習や簡易試合を行い, ルール審判法を習得する.		
	2ndQ	9週	(前期中間試験)				
		10週	水泳①		クロール, 平泳ぎの修得. 水難事故対策として着衣泳を行う.		
		11週	水泳②		クロール, 平泳ぎの修得. 水難事故対策として着衣泳を行う.		
		12週	水泳③		クロール, 平泳ぎの修得. 水難事故対策として着衣泳を行う.		
		13週	保健①		「生涯に通じる健康」について学習する.		
		14週	保健②		「生涯に通じる健康」について学習する.		
		15週	前期末試験		筆記による保健のテストを行う		
		16週	前期末試験の解答と解説		保健のテストの解答と解説を行う		
後期	3rdQ	1週	陸上競技①		短距離走の記録を測定する. その記録を元にリレーを行う.		
		2週	陸上競技②		走幅跳の記録を測定する.		
		3週	陸上競技③		持久走の記録を測定する.		

		4週	サッカー① ソフトテニス・卓球①	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		5週	サッカー② ソフトテニス・卓球②	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		6週	サッカー③ ソフトテニス・卓球③	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		7週	サッカー④ ソフトテニス・卓球④	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		8週	バレーボール・バスケットボール①	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
	4thQ	9週	(後期中間試験)	
		10週	バレーボール・バスケットボール②	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		11週	バレーボール・バスケットボール③	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		12週	バレーボール・バスケットボール④	基本技能の習得後、ゲームによるルール・審判法を習得する
		13週	保健①	「現代社会と健康」について学習する。
		14週	保健②	「現代社会と健康」について学習する。
		15週	学年末試験	筆記による保健のテストを行う
		16週	学年末試験の解答と解説	保健のテストの解答と解説を行う

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	目標の実現に向けて計画ができる。	3	前2,前3,後1,後2,後3
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前13,前14,後13,後14
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	後10,後11,後12

評価割合

	実技	試験	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0